

2015 年度 前期 教養学部 教養学科		日英区分 :日本語
国際開発特論（開発現場の諸問題） Advanced Lecture on International Development		
 ナンバリング		 科目分野
		教養学部専門
 担当教員（ローマ字表記）		
小林 誉明 [Kobayashi, Takaaki]		
 対象学生	 対象年次	 単位数
		2
 必修・指定選択・選択の別	 曜日時限	 教室
	水5	教養学部-32
 科目群		 講義番号
		F15173

クラス指定

特になし

他との関連（関連項目）

国際開発援助論、国際政治学、開発経済学、国際法等

履修条件（授業に必要な既修得科目または前提知識）

特に設けないが、国際協力概論、国際開発援助論、国際政治学、開発経済学などの科目を履修済み、もしくは同時履修しているとより望ましい。

テーマ・副題

開発の現場を複眼的な視点から見る

授業科目の到達目標

多様なアクターによって繰り広げられる「国際開発援助」という現象を、多角的な視点から捉えるための「眼」を養うことを目標とする。本講義を通じ、様々な見方や意見を踏まえた上で、自らの頭で考え、自分なりの見解をもつための訓練を行うことで、現代国際社会を生きるために必要なリテラシーを身につけるための機会を提供したい。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

途上国、援助、開発、国際協力、ODA

授業の内容

途上国の「開発」を「援助」する様々な「現場」において発生していると考えられる数々の「問題」を「発見」し、問題発生のメカニズムについて分析した上で、問題解決の方策について検討してゆく。一見すると大問題と思われたところに実は解決の糸口が潜んでいたり、逆に、問題には見えないところに真の問題が潜んでいたりという事例を検討することを通じて、より正確に現代世界を捉えるための「考え方」を身につけるトレーニングを行ってゆく。

授業の方法・事前準備学修・事後展開学修

政府開発援助（ODA）の実務家による「現場」における生の経験と、「研究」における最新の議論とのバランスのとれた教授を行う。毎回の講義では、設定された問いに基づいて、具体的なケースを題材としたロールプレイやディスカッションを行った後、講師からの解説を行ってゆく。映像資料等をふんだんに織り交ぜ、グループ・ワークなどを含むインタラクティブな講義となるであろう。テーマに応じて、ゲスト招待の機会を設ける場合もある。

授業展開（スケジュール）

以下のスケジュールを予定しているが、受講生の興味関心および学習進捗状況によって、柔軟な変更の余地あり。

導入：「開発」とは何か
<p>第一部：アクターの立場ごとに異なる諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国にとっての現場の諸問題 先進国にとっての現場の諸問題 国際機関にとっての現場の諸問題 民間アクター（企業、NGO等）にとっての現場の諸問題
<p>第二部：セクターごとに異なる諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産セクターにおける現場の諸問題 ガバナンス・セクターにおける現場の諸問題 インフラ・セクターにおける現場の諸問題 社会セクターにおける現場の諸問題
<p>第三部：コンテキストごとに異なる諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 重債務最貧国に特有な現場の諸問題 紛争国に特有な現場の諸問題 中進国に特有な現場の諸問題 移行経済国に特有な現場の諸問題 緊急時に特有な現場の諸問題
まとめ

成績評価方法

毎回の講義におけるグループワーク等への参加、提出されるミニ・クイズおよび期末レポート等の成果物に基づき総合的に評価を行う。

成績評価基準

期末レポート（30%）、ミニ・クイズ（30%）、講義への貢献（40%）とする。

テキスト

備考	青山和佳・受田宏之・小林誉明編（2010）『開発援助がつくる社会生活：現場からのプロジェクト診断』大学教育出版。
----	--

参考図書

学生へのメッセージ

講師は、国際協力銀行（JBIC）および国際協力機構（JICA）において実際のODAに携わってきた経験をもつ。国際協力のリアルな現状を話すことを心がけたい。国際協力業界を志望する学生についてはキャリア相談の機会もつくる予定である。

人数制限

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

t-kobayashi@ynu.ac.jp

オフィスアワー

非常勤のため特段オフィスアワーは設けないが、講義の前後およびメールでの質問等は大いに歓迎する。

連絡先（ホームページ、その他）

関連ホームページ

その他・備考

受講生諸氏には、講義への積極的な参画と宿題などへの意欲的な取り組みが求められる。本講義のために一定量の労力を割くことにコミットできる学生の受講を歓迎する。